

令和5年度 第60回広島県小学校社会科教育研究大会

福山大会

報告集



広島県小学校社会科教育研究大会現地実行委員会

目 次

I	大会概要	1
II	全体会の様子	3
III	講演（概要）	6
IV	分科会の記録（授業・実践提案）	9
	・第3学年	
	・第4学年	
	・第5学年	
	・第6学年	
V	成果と課題	21
	編集後記	24

I 大会概要

1 大会主題

「社会を見つめ、未来を問いつける社会科教育の創造」

～「問い」と「資料」を通して、想像豊かに探求していく学びを創造する～

2 期 日 令和5年11月1日（水）

3 会 場 福山市立東小学校
〒720-0052 広島県福山市東町三丁目7番49号

4 日 程

12:20	12:55	13:20	14:10	15:20	16:40
受付	開会行事	研究報告	休憩・移動	公開授業	休憩・移動
12:40	13:10	14:05	15:10	16:20	
			分科会 (公開授業検討・ 実践提案発表 と講評)	講演	閉会行事

5 講 演

演題 「社会科の単元づくりの設計図」

講師 大妻女子大学 家政学部 児童学科 教授 澤井 陽介 先生

6 全体会

(1) 開会行事

◇主催者挨拶

広島県小学校教育研究会社会科部会 会長

阪田 淳二

◇来賓祝辞

広島県教育委員会 学びの変革推進部 義務教育指導課 課長
福山市教育委員会 教育長

立田 晃 様
三好 雅章 様

(2) 研究報告

福山市立東小学校 研究主任

松野 雄太

(3) 閉会行事

◇開催校挨拶

福山市立東小学校 校長

村上 里美

◇次期開催校挨拶（第61回大会）

庄原市立西城小学校 校長

小原 智子

7 公開授業

学年	単元名	授業者
第3学年	くらしを守る 「火事からくらしを守る」	黒木 沙恵
第4学年	きょう土の伝統・文化と先人たち 「残したいもの 伝えたいもの」	窪田 伸二
第5学年	わたしたちの生活と工業生産 「自動車をつくる工業」	森 千紘
第6学年	日本の歴史 「明治の国づくりを進めた人々」	松野 雄太

8 分科会

学年	公開授業単元名	実践提案者	発表題
第1分科会 (第3学年)	くらしを守る 「火事からくらしを守る」 教諭 黒木 沙恵	安芸高田市立美土里小学校 教諭 斉藤 樹里	社会を見つめ、未来を問い続ける 社会科教育の創造 ～社会とつながる単元づくり、 学び合いの授業づくりを通して～
第2分科会 (第4学年)	きょう土の伝統・文化と先人たち 「残したいもの 伝えたいもの」 教諭 窪田 伸二	広島市立矢野南小学校 教諭 市位 和生	見方・考え方を働かせる 社会科学習の実践 ～単元「土砂災害からくらしを守る」 の開発を通して～
第3分科会 (第5学年)	わたしたちの生活と工業生産 「自動車をつくる工業」 教諭 森 千紘	東広島市立川上小学校 教諭 高須賀 夏実	社会を見つめ、未来を問い続ける 社会科教育の創造 ～ネット型ショップを事例とした 学習を通して～
第4分科会 (第6学年)	日本の歴史 「明治の国づくりを進めた人々」 教諭 松野 雄太	府中市立上下北小学校 教諭 林 奈穂	本質に迫る社会科授業の創造 ～社会的事象の見方・考え方を 働かせる授業づくり～

学年	指導助言者	司会者	記録者	運営委員
第1分科会 (第3学年)	広島県教育委員会 学びの変革推進部 義務教育指導課 指導主事 宮岡 大輔	前田 晋吾 (福山市立東小)	柴田 竜矢 (福山市立東小)	中吉 康太 (福山市立駅家北小)
第2分科会 (第4学年)	広島県東部教育事務所 教育指導課 指導主事 池内 佑介	土山 崇典 (福山市立春日小)	松村 裕美 (福山市立東小)	盛久 正悟 (福山市立御野小)
第3分科会 (第5学年)	広島県西部教育事務所 教育指導課 指導主事 高橋 伸明	縄稚 慎太郎 (福山市立曙小)	杉本 健将 (福山市立東小)	門前 綾乃 (福山市立松永小)
第4分科会 (第6学年)	福山市教育委員会 学校教育部 学びづくり課 指導主事 柏原 正志	杉野原 志穂 (福山市立金江小)	大垣 育子 (福山市立東小)	中村 直志 (福山市立想青学園)

Ⅱ 全体会の様子

1 開会行事

◇ 主催者挨拶

広島県小学校教育研究会社会科部会

会長 阪田 淳二



◇ 来賓祝辞

広島県教育委員会

学びの変革推進部 義務教育指導課

課長 立田 晃 様



福山市教育委員会

教育長 三好 雅章 様



2 研究報告

福山市立東小学校 研究主任

松野 雄太



3 講演

大妻女子大学 家政学部 児童学科

教授 澤井 陽介 先生



4 閉会行事

◇ 開催校挨拶

福山市立東小学校 校長

村上 里美



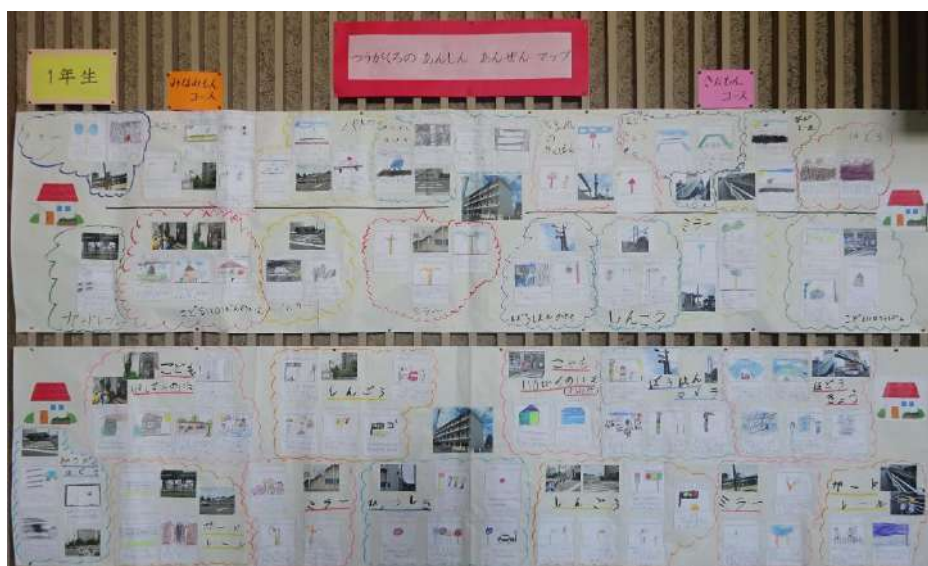
◇ 次期開催校挨拶（第 61 回大会）

庄原市立西城小学校 校長

小原 智子



【会場掲示】



III 講演（概要）

演題「社会科の単元づくりの設計図」

講師 大妻女子大学 家政学部 児童学科 教授 澤井陽介先生

1 小社の問題解決的な学習の特徴を踏まえて生かす

（1）入れ子型の問題解決構造

一般的には学習問題（大きな問い）に対して、「どのように」「なぜ」などの学習問題に迫るための毎時間の問い（小さな問い）を繰り返していくことで学習問題の解決に向かっていく構造となる。学習指導要領の「～に着目して」、「～を捉え」という文章に注目して授業を考えると単元を組み立てやすい。「～を考え」までは小学校社会科では焦らなくていい。中学校社会科で扱ってよい部分である。小学校の社会科は調べて、考えて、まとめるという道筋を大切にしている教科なので、小学校は自分達が疑問をもつところからスタートしていくことが大切である。

（2）「単元を貫かない」問いの現実

問いを考えることは教材研究になる。教材研究は教えること（ゴール）を考えてしまいがちだが、それは先生の説明のイメージである。社会的事象に子ども達がどうしたら自分で学びに向かっていくことができるかを考えるのが問いを考えることであり、資料などを使って子ども達から出させることが大切になる。だから問いの教材研究をしましょう。しかし授業にはねらいがあるので、子ども達に問いを言わせることばかりにこだわらずに、問える子どもを育てるトレーニングだと思って、教師がいい発問をどんどんしていったらよい。いい発問ができるかどうかは先生の力量に大きくかかわってくる。

単元構造において、小学校はみんなで考えていく、見通しをもっていこうとする単元のスタートを重視する。しかし、中学校は単元のゴールを重視する。よって小学校社会科の単元においては、学習の見通しをもち、学習を方向付けることを大切にする。そして子ども達とやり取りをし、見通しをもたせながら設定した方が、学習問題が子どもにより届く。だから学習問題作りの本時のめあては「学習問題を設定し、解決の見通しをもつ」ところまでしないと、学習問題作りの時間がわくわくした時間にならない。見通しをもって学んでいくことだから教師が学習問題を握ってないといけないが、子ども達の言葉やこだわりを入れながら共につくっていく。学習問題で子ども達が単元を貫くま

では難しいので、子ども達と一緒に単元を見通すくらいの方がむしろよいと思う。学習問題が子ども達の調べる範囲を縁取り、調べたことを意味付ける「概念化ボックス」としての機能を果たせるようになるとよい。

(3) 調べてまとめる型の単元展開

学習のまとめの工夫をする。特色や意味を考えて概念化するような単元展開になるとよい。小さな問いを解決して、学習問題に迫るような展開をし、さらには新たな問いが生まれる。

2 学校教育の在り方に影響を与える世界や社会の価値観を把握してチャレンジする

(1) 学校教育に関する世界や社会からのメッセージ

OECD が提唱しているラーニング・コンパス 2030 では、「ウェルビーイング」は、「子どもが幸福で充実した人生を送るのに必要な、心理的、認知的、社会的、身体的な働きと潜在能力」とされ、「教育の目的は、個人のウェルビーイングと社会のウェルビーイングの2つを実現することである」としている。つまり、ここから考えられる教育の目的は「子ども一人一人と社会全体が現在から将来にわたって幸せで満ち足りた状態になるため」ということができる。また、生徒が自分自身の生活・人生と世界に対して良い影響を与える能力と意志をもっているという「生徒エージェンシー」の概念が提唱されている。

また、学校教育が直面する子ども達の多様性は、社会構造の変化と共に加速していき、もはや配慮すべき多様性といえる。このような状況の中で個別最適な学びが進められている。

(2) 社会科はどこに向かえばよいのか

①「選択」と「共有」のある学習過程

大切にしてほしいキーワードは「選択」と「共有」。すべてを選ばせるわけではなく、大きな選択から小さな選択まであるが、選んだり決めたりする行為がないと主体的にはなれない。選ぶために課題の「共有」が必要になる。選ぶから多様な意見が出る。選ぶから自分事になる。自分事になるから自分の学びとしてふり返ることができる。だから、「次はもっとこうしたい」というような自己調整を行うことができる。主体的に学習に取り組む態度を育成するには、教師ができる限り子ども達が意思を表明できるような場面を作っていくことが大切になる。子どもに選ばせてあげない限り最適には出会えない。

②問題解決の見通しのある問い

学習の方向づけを行い、学習内容を縁取ることができるような社会的事象との出会いをする。子ども達から出た疑問をもとに学習問題を教師と共につくり、各自のもつ疑問に対する予想、予想を確かめるための方法を見通すことができるような問いを設定することが大切である。大きな問いからそれぞれが調べたい事柄を方向付けられる問いを混ぜてあげることが大切になってくる。個々の問いを大きな問いに入れてあげるように個々の問いを大切にしながら単元を進めていく必要がある。そうしないと、問いや問いに対する予想をもたない子ども達になる可能性がある。疑問をもったり、予想したり、調べて話し合ったり、まとめをしたりするというこのプロセスこそが教科を超えて思考力・判断力・表現力や、主体的に学習に取り組む態度を育てる。問題解決の能力はすべての教科で育成するものである。資質能力は汎用性の高いものでどの教科にも共通するものである。

③子どもが働かせる「見方・考え方」

小学校社会科を社会科らしい発問にするためには、「見方・考え方」を意識した授業づくりは大切になる。しかし、見方・考え方をあまり意識しすぎる必要はない。授業では教材や目標など様々なことを考えないといけないので、あとから授業を考えるとときに、「社会科らしくなっているかな」、「学習指導要領の「～に着目して…」という部分が入っているかな」、「地図を出した方が社会科の学びになるのではないかな」など社会科のチェックポイントとして位置付けるのがよい。

また、中核的な概念を使って指導することも求められる。つまり、その教科で大事な意味をもつ言葉を用いて社会科を学んでいくことが大切になる。例えば、「工夫・努力」は人間の働きをみる窓になる。いろいろな単元で工夫・努力を学ぶことで理解が豊かになる。中核的な概念になる言葉を子ども達は学習問題をつくる段階ではもっていないが、一回使うとどんどん使うようになる。前の単元で学び、使うことで、子ども達の中での概念が鍛えられていく。見方・考え方をはたらかせる次のステージは、子ども達がその教科で大事なキーワードを使いながらまとめをする、話し合う、考えるといった姿かもしれない。

Ⅳ 分科会の記録（授業・実践提案）

【令和5年度：第60回広島県小学校社会科教育研究大会 第（1）分科会】

（3）年生

1 【授業提案記録】

単 元 名 暮らしを守る

～火事から暮らしを守る～

授業提案者 福山市立東小学校 教諭 黒木 沙恵

（1）授業提案の概要

- 児童は、今までに火事について身近に考える機会はなかった。その中で消防署見学等の活動をしながらか学習意欲を高め、消防士について知識を増やしてきているところである。
- 前回までに身近にある消防の施設の写真を撮る宿題を出した。ある児童が消防団の方に話を聞き、消防団の倉庫についてまとめたものがあつたので、本時の導入で使った。授業を進めていく中で、消防団と消防士は別物というイメージが児童にあることに気付いた。地域のために活動しているというまとめが教師主導になってしまったことを反省している。

（2）質疑応答・討議 Q（質問）・A（解答）・意（意見）・助（助言者）

Q：単元計画の第1時と第2時が教科書と逆であることに意図はあるのか。

また、資料はどこから持ってきたのか。

A：教科書通りならイラストからスタートだが、火事の原因を調べた時に、児童の中に119番を知らないという現状があつたため、最初に119番で誰が来るのか考えた。その後に火事が起こった町の様子を見ることでどんな人や物が動くのか考える授業展開にした。そこから、「火事から地域の安全を守るために、だれがどのような取組をしているか」という単元目標につなげていくことができた。この単元計画は「児童の思考の流れ」を教師側で考え、組み立てた。

資料作りについては、全国共通のものはインターネットのものをを使い、第6時は児童がタブレット端末を使い身近な消防施設を撮ってきたものを活用した。今回は消防団が行事に参加している様子の写真や隣のクラス担任が消防団員として活動している写真など、教科書に載っていないものを地域教材として使った。

Q：火事になったら消防団員にはどうやって連絡がいくのか。

A：消防局からのメールが届いて火災情報を知る。最近だとLINEでどこでどんな火災が発生したのか知ることができる。

意：児童は「柴田先生は仕事しているから無理だね。」と言っていたが、「消防団はどういう火事が起きた時にどのような動きをしているか」「消防士が来るならいいんじゃないのか」「消防団はいるのか（人数だけではなく必要性の面でも）」そこに疑問を感じていたように思えた。今日の授業は「どんな役割なのか、最初はどんな仕事をしているのか」という事実を問う授業だったと思う。「消防士と消防団は違うな」という違いは分かっていたとしても、ズレが分かっていたのかなと思う。児童の素直な感想やズレをもう少し掘り起こして、消防団の仕事ではなく役割に迫ることで、「消防団がいる（必要）」となったのではないかな。

2【実践提案記録】

研究主題	社会を見つめ、未来を問いつける社会科教育の創造 ～社会とつながる単元づくり、学び合いの授業づくりを通して～		
単元名	市のうつりかわり		
実践提案者	安芸高田市立美土里小学校	教諭	斎藤 樹里

(1) 実践提案の概要

この実践の前に児童が住んでいる地域を中心に学びを進めている。地域の人にインタビューするなど自分の身近にある諸問題を解決する学習をしてきている。この単元では時間軸で人や物の変化に気づき、安芸高田市が抱える課題にも目を向けていく。

研究の視点

- 体験活動を活かした単元構成
- 学び合いの授業づくり

成果

- 「自分の興味関心を引き出す体験活動から単元を貫く問いを設定すること」「課題解決に向けて連続する問いを設定しグループや全体で取り組んできたこと」により、児童が主体的に社会に関わろうとする姿が見られた。

課題

- 児童は自分が作成した資料を根拠に発言していたが、分かったことや考えたことが曖昧になっていた。より深い学びにするためには自分が考えた根拠を明らかにした対話を通して、より社会を見つめ、未来を問う学びに深めていかなければならない。

(2) 質疑応答・討議

Q（質問）・A（解答）・意（意見）・助（助言者）

Q：社会とつながる単元づくりは、他学年ではどのような実践なのか。

A：クラスの児童がどのように社会を捉えているのか知ることが大切になっている。児童は、災害の際に被害の実際など自分達に近い経験から考えていった。そこからどのようにすると児童の考え方が広がるかを考えている。防災だと「自分達ができることは何だろう」と考えるようにしている。自分達の経験したことやズレなど自分事からスタートするようにしている。今回は、体験から単元を始めた方がいいと考えた。目の前の児童から、どうやって広げた方がいいかと考えている。教科書通りにならない事の方が多い。

3【指導・助言】

(助言者：広島県教育委員会学びの革新推進部義務教育指導課 指導主事 宮岡 大輔先生)

1 授業提案について

○地域の人的・物的資源を効果的に活用している

消防団は、児童にとって身近なものではなかったため、身近な人の中にも消防団に入っている方がいることに気付かせたり、消防団の方の思いに触れる機会を設定したりするなど、消防団を身近にする工夫が見られる。また、消防団の方の思いに触れることで、自らが社会を形成する一員であるという自覚を一層持たせやすくし、単元末の学習につながるように工夫している。

○身に付けさせたい概念が明確

児童は、「安全」という概念に着目して、「備え」、「対応」、「協力」の視点で、安全がどのように守られているのかについて考えられている。黒木先生が、「安全」について一貫して考えられるように単元の構成を工夫されているからこそである。児童に現代社会の見方・考え方の基礎を養っている授業である。

2 実践提案について

○地域の人的・物的資源を効果的に活用している

地域の博物館や学芸員の方と児童を出合わせ、社会に開かれた教育課程を意識されている実践提案である。単元を貫く問いを児童に常に意識させ、課題解決のために目的意識をもたせた上で博物館と学芸員の方と出合わせることで人的・物的資源の効果を高めている。また、児童の疑問を博物館の方と事前連携することで、博物館の方の説明が児童の疑問を解決する説明となり、興味・関心を持たせることにつながっている。

○社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせている

児童は、「今よりも前」「今」「これから」と三つの時間軸に分けて考えることができている。

児童が時代と時代を比較して物事を考えられているのは、斎藤先生が「推移」や「変化」などに着目して学習問題等を設定しているからこそである。児童に社会的事象の歴史的な見方・考え方の基礎を養っている実践提案である。

3 今後の研究について

○2つの単元を関連付けた単元構成の工夫

「地域の安全を守る働き」は、多くの学校で「火災」を学習した後に「事故や事件」を学習するようになっている。「火災」で学習したことを「事故や事件」でも生かしてほしい。例えば、「火災」で学習したことを基にして予想をさせたり、学習計画を立てさせたりすることが考えられる。また、学習のまとめの際、「火災」と「事故や事件」で調べてわかったことを比較・関連付けたり共通点を見つけたりするなどして、児童の「安全」についての理解を深めることが求められている。

○市の移り変わりの充実のために

学習指導要領の改訂により市の様子の変化についてより一層考えることが求められている。生活の内容が変わっただけではなく土地利用や人口の変化などに加えて、これからの市の発展に関心をもち、市が将来どのようなようになってほしいか、そのためには市民としてどのように行動していけば良いかなど、市の将来について考えたり議論したりできるように指導することが求められている。



【令和5年度：第60回広島県小学校社会科教育研究大会 第（2）分科会】

（4）年生

1【授業提案記録】

単 元 名 きょう土の伝統・文化と先人たち

～残したいもの 伝えたいもの～

授業提案者 福山市立東小学校 教諭 窪田 伸二

（1）授業提案の概要

- 福山とんどが二度にわたって途絶えたにもかかわらず現在は復活しているという、昔から現在までの経緯をふまえ、地域の人々が福山とんど祭を受け継ぐために努力していることを知り、その取組に込められた願いや思いを考える。
- 「練り歩きを行うとんど」と「練り歩きを行わないとんど」の資料を提示して児童が比較して考えることで、「問い」を焦点化させ、人々の願いや思いについて気付けるようにした。そうして気付いた「地域の人々の福山とんどを受け継ぐための努力や願い・思い」について児童が考えたことを表現する活動を行った。

（2）質疑応答・討議 Q（質問）・A（解答）・意（意見）・助（助言者）

- Q：教室内の掲示物（県内の文化財を児童が調べてまとめているもの）にたくさんの文化財を調べた掲示があるが、どのようにして、あれほどたくさんのものを児童が調べられたのかを聞きたい。
- A：単元の導入段階で県内に900の文化財があることを紹介し、白地図を用意した。調べたことを地図に書き込むうちに、授業外での児童同士の交流も生まれ、「空白の地域も調べたい」と自主学習に多くの児童が取り組んだ。授業で扱ったのは2時間程度だったが、一人2ヶ所から8ヶ所程度を調べ、白地図に書き込むことが出来た。
- Q：地域教材の単元づくりとして、地域の方へのインタビュー・教材研究をどのように行ったのか。また、困ったことはなかったか。
- A：学習指導要領をもとに、指導者が目指したい単元のねらいを考え、教材と資料を焦点化し関連付けた。その際、「教師自らが知りたいと思うことでないと、子どもたちも知りたいと思えない」と考えて教材研究している。インタビューは、地域の方や関係施設の方に直接連絡を取って行っている。困ったことは、課題に対する予想を立てて取材に行ったが、頂いた資料が自分のねらいと違うことがあること。しかし、「その資料使えない」となるか「そこからさらに考えていけるか」と考え教材研究を進めている。例えば、今回、地域の方が一番重要視していたのは「とんどの歌」だったのだが、歌詞が児童には難しい部分があった。そこで、児童に分かる形にして、児童が必要になったら提示していくつもりだった。
- 意：本時の「学習問題の問い」と「焦点化する問い」、「単元を貫く大きな問い」の3段階の問いを設定したことで児童の興味・意欲が引き出される導入の工夫となっていた。とんどの映像までを前時で見せておくと本時の内容をおさえやすかったと思う。「練り歩きあり」と「練り歩きなし」の映像の比較は焦点化させる資料として児童の気付きにつながる分かりやすいものだった。
- Q：地域の人々の想いや願いを中心に展開するなら「なぜ練り歩きにこだわったのか」をメインにしてもよかったのではないかと考えたが、「どのように残されてきたのだろう」と「なぜ練り歩きにこだわったのか」のどちらを授業のメインとして考えていたのか。
- A：「どのように残されてきたのだろう」という事実から入って、本時で深めていきたいところ「なぜ練り歩きにこだわったのか」を考える事につなげたかった。「なぜ練り歩きにこだわったのか」を、資料をもとに話し合いながら考えることで、人々の思いや願いに気付き、児童の考えが深まるようにと考えていた。

2【実践提案記録】

研究主題 見方・考え方を働かせる社会科学習の実践
単元名 「土砂災害からくらしを守る」の開発を通して
実践提案者 広島市立矢野南小学校 教諭 市位 和生

（１）実践提案の概要

2018（平成30）年7月6日の西日本豪雨は、本校のある矢野地区に大きな被害をもたらした。本校の体育館は地域住民や近隣地区の避難所となり、矢野南地域の人たちは避難した人々の生活や流出した土砂から町を守るなど、防災に係る地域の人々の果たす役割は非常に大きなものがあった。そうした経緯や児童の経験等をふまえ、以下の3点を研究の視点に据え、実践を進めた。

○矢野地区の人達は地理的・歴史的にどのように災害に備えてきたのかを今昔マップで土地利用の様子を比較し考えさせる。

○行政や地域の人達はどのようにして災害に備えているのかを地域の防災に関する施設・設備等から考えさせる。

○これからの自然災害に対してどのように備える必要があるのかを公助だけではなく共助の観点からも考え、広島マイ・タイムラインを活用して授業を展開する。

（２）質疑応答・討議

Q（質問）・A（解答）・意（意見）・助（助言者）

Q：この単元を進めるにあたって、国土地理院の地図を ICT 資料として活用されていたが、そのノウハウはどのようにして知り、教材化したのか。

A：この授業づくりを考えるにあたり、配付資料の「参考文献・資料」に載せているワークショップに参加した。その際に、国土地理院の地図が使えることを知り今回の授業に取り入れた。

Q：本時の内容について、架空のAさん（近所に住む災害弱者と一般に言われている高齢者）の避難の仕方をグループ活動で交流した後全体で交流しているが、児童からどのような意見が出たかを教えてほしい。

A：事前にマイ・タイムラインを作る経験をしていないと1時間で考えることは難しい。本校の所在する矢野地区は平成30年の西日本豪雨の被災地だった経緯もあり、本年6月に広島県の「マイ・タイムライン作成講座」を受講して、児童全員が学んでいる。尚且つ、夏には児童が自分でマイ・タイムラインを作っている。そのような下地があった上で本単元の学習に入ったので、架空の人物である高齢のAさんの避難の仕方・させ方について議論が深まった。また、実体験をもとにした意見も出た。例えば「タクシーで逃げたらよい。」「いや、タクシーは災害地にすぐ来れないから無理じゃろう。」「近所の人に頼んだらどうだろう。」などと児童から意見が出され、考えを深めていた。話し合いの中でより深い議論に発展させるために、「警戒レベルの最初の段階で避難が完了しているのだろうか。」と問いかけた。児童からはマイ・タイムラインを活用しているのでたくさんの意見が出た。まず、全体で話し合いをさせ、「警戒レベルの条件に基づいて考えているか。」「避難したうえで1週間過ごすことでどんな準備がいるのか。」について話し合いをしながら授業を展開した。

Q：単元の学習計画をどのような流れで立てたのか。担任主導で立てたのか、それとも児童と一緒に考えたのか。

A：昔の地形や土地活用の様子を学習した際には、児童からは「もっとやりたい」という意見が出たが、児童と相談しながら昔と比べて今の様子や防災の取組について考える学習計画を立てた。

3【指導・助言】

(助言者：広島県東部教育事務所 教育指導課 指導主事 池内 佑介先生)

1 授業について

生成 AI 等に見られる技術革新による時代の変化、価値観の多様化、生産年齢の人口の減少など様々な課題がある現代社会の中で、研究主題は学習指導要領の趣旨や公民としての資質・能力の基礎を育成するという社会科を学ぶ本質を踏まえた内容だった。

(1) 問いの深まりを意識した単元構成

○問いの深まりを実現する単元構成の工夫として、社会的事象と出会う問いから実社会に繋げる問いの6つの問いを示して役割や工夫を定義付けている。学習問題である大きな問いに対する児童の疑問に思ったことから本時の学習課題を設定すること、問いに対する予想を立て、その解決に必要な資料を選択させることを大切にしていた。本時では、福山とんどが二度途切れていること、復活にあたり課題があったことに気付かせ学習問題を設定している。児童のつぶやきの中に「40年間努力してきたのでは」「大切にされてきたんじゃないか」といったものがあった。これは、単元構想をきちんと行ったことで、児童が主体的に考え、前時までの厳島神社の保存継承に関わった人々の思いや願いを考える学習と関連付けた発言が見られたと考える。「問いの深まり」を意識することは「問いの構造化」が図られ、問いに対する予想を大切にすることで児童が主体的に問題解決に図ろうとする姿に繋がる。また、私たち指導者にとっても「主体的に学ぶ単元をデザインする力」の向上に繋がる。

(2) 提示する資料の目的の明確化・焦点化と提示方法の工夫

○本時では、資料同士の組み合わせを意識して提示したことで、児童が「福山とんど」との距離を縮め、福山とんどが二度途切れたことをより印象的に捉えさせることができていた。「思い」から社会の授業に入ると、児童は考えることが難しくなる。まずは「事実」をおさえることが大事で、「事実」の隣でこそ児童は考えることができる。今日の授業は効果的な資料提示のある授業であった。

2 実践提案について

(1) 「社会的な見方・考え方」を育む「問い」と「資料」

○実践提案では、単元を貫く問いと資料提示について、東小学校の実践と共通するものがあった。被害を受けた地域に住む児童に対して、自然災害を扱うにあたって様々な困難があったと考えられるが、空間的・時間的な捉え方ができるよう資料の提示を工夫していた。

(2) 単元末における「社会との関わり方の選択・判断する」実践について

○高齢者Aさんの避難一つをとっても「地理的な視点や地域の人間関係、社会からの孤立」等実社会における様々な問題を内包している。社会の仕組みを知って、単元末には「社会との関わり方の選択・判断する」場面がある実践だった。児童が、実社会にどのようにかわるのかを考えることができていた。

3 今後の研究に向けて

○社会科は、教科横断的に進めたり、○○教育と関連付けたりすることが多い。各教科等や単元で育成する資質・能力を明確にすることで、社会科の時間で育成する資質・能力との相互関連を明確にすることができる。

○社会科においても実社会と関連させた持続可能な授業づくりが必要である。本実践で情報収集に活用したものや連携した人・機関などとの繋がりを、全体の財産となるようにしてほしい。そのためには、カリキュラム・マネジメントを充実させ、本実践が持続可能な取組となるよう研究の更なる改善・充実に努めてほしい。



【令和5年度：第60回広島県小学校社会科教育研究大会 第（3）分科会】

（5）年生

1【授業提案記録】

単 元 名 わたしたちの生活と工業生産

～自動車をつくる工業～

授業提案者 福山市立東小学校 教諭 森 千紘

（1）授業提案の概要

- 個別最適な学びを実現するために、導入の資料から一人一人が気になった疑問を「マイ課題」として、個人の疑問や考えを大切に授業を行った。
- 「マイ課題」を解決するためには、協力して資料を見つけなければならないという必然性のある協働的な学びに繋げて授業を行った。
- 本時までには児童が自分で資料を調べ、ジグソー学習に向けてスライドや原稿も準備してきた。
- 困っているグループには教師から資料を提供した。
- 発表時間に差が出ないように、気になったことを追加で調べてもよいと提案した。

（2）質疑応答・討議 Q（質問）・A（解答）・意（意見）・助（助言者）

Q：児童が調べたいことを自由に調べていると、意見が拡散されたり、意味は分からないけれどもとりあえず書いておくといったことが起こりがちだが、授業を組み立てる際に気を付けたことはあるか。

A：ジグソー学習をすることで、児童が教師の思いとは違う方向に広がっていったことに悩んだ。そのため、学習指導要領や教科書の指導項目がきちんと押さえられているかを確認しながら、単元の学習課題を設定することを意識した。また、スライド作成の際には、キーワードのみを記述したり、相手意識をもって文字数を少なくしたりするようアドバイスした。学習課題とのズレがないかを確認しながら指導を行った。

Q：どのようにして児童に資料を集めさせたのか。

A：教科書より資料集を活用して調べる児童が多かった。キーワードで検索してもヒットせず困っていた児童には、各自動車会社の子ども用サイトを紹介した。

Q：本時で児童に捉えさせたかったことは何か。

A：マイ課題についてのみのまとめではなく、色々な視点から調べた意見を聞いたうえで、それらを踏まえたまとめを各自書かせたかった。自分が調べたこと以外の情報も入ったまとめを一人一人が書けることを目指した。

2【実践提案記録】

研究主題	社会を見つめ、未来を問いつける社会科教育の創造 ～ネット型ショップを事例とした学習を通して～
単元名	情報通信技術を生かして発展する産業
実践提案者	東広島市立川上小学校 教諭 高須賀 夏実

(1) 実践提案の概要

1 単元について

○大手通販サイトを教材化することで、児童の学習意欲を高め、今日の社会を正しく見せることをねらった。また、比較表とグラフデータの提示により、国民生活の向上は情報通信技術の発達の恩恵を受けていることを捉えさせた。さらに、児童の学びの変容を見取るパフォーマンス課題を単元の最初と最後に取り組ませた。

2 ねらいに迫るための資料提示

○ネット型ショップの仕組みを捉えさせるために、注文から購入までの流れを図式化したものや、CM動画を資料として提示したことで、私たちの生活は情報通信技術の発達に関わっていることに気付かせることができた。

○店舗型ショップとネット型ショップを3つの視点で比較した表と、それぞれの取り扱い商品別の販売数のグラフを提示した。2つの店舗を比較させることで、ネット型ショップならではのよさに気付かせることができた。

○児童の学びの変容を見取るパフォーマンス課題

単元前と単元後に、同じ内容だが文言を変えたパフォーマンス課題に取り組ませ、児童の変容を分析した。その結果、学びを課題解決に活かしたり、未来の社会情勢を思考したりする児童の姿が見られるようになったという成果が見えた。

(2) 質疑応答・討議

Q（質問）・A（解答）・意（意見）・助（助言者）

Q：単元を貫く問いはどのようにして決めたのか。

A：自分で問いを作ったり見いだしたりするのが苦手という実態があったため、教師側から提示した。

Q：パフォーマンス課題はどのような評価規準だったのか。

A：情報化とIT技術の両方に関連する内容が記述できていればA、どちらか一方のみであればB、どちらの視点からもずれていたらCという評価だった。

3【指導・助言】

(助言者：広島県西部教育事務所 教育指導課 指導主事 高橋 伸明先生)

1 授業について

(1) 主体的な学びにつながる問題解決的な学習の工夫

○自ら課題をもち、解決を目指す「マイ課題」を設定させた点が特徴的だった。研究の視点である「主体的な資料の選択や判断」が具現化されていた。児童は、自分の予想に対してどんな資料があれば単元の課題が解決できるのか、マイ課題が単元の課題とどう関連しているのかを考える必要がある。その際、調べたけれど資料が見つからなかったといった問題が生じる。本校ではこのつまずきを大切にしており、次にどうすればよいのかを児童に考えさせている。その結果、学習を調整する力や主体的に学習する態度の育成につながっている。

(2) 協働的な学びにつながる学習展開の工夫

- 単元の学習課題と結びつけたジグソー学習は、児童にとって必然性のある活動になっていた。また、児童の発表は、それぞれのこだわりが詰まっていた。その結果、聞いている児童の「もっと知りたい・分きたい」という気持ちや驚きの声を引き出すことができた。これは、こだわりをもって考えを持ち寄り、吟味するといった今までの積み重ねがあったからだ。
- 「調べていたことはこのための工夫だったのか」、「こんなにたくさん工夫しているから品質のよい自動車ができるのか」など、調べたことを意味付けしていく必要がある。このことによって社会科の概念的な知識の獲得につながる。

2 実践提案について

(1) 比較の視点を明確にした学習活動の工夫

○「なぜ、ネット型ショップは多種多様な商品を集め、販売することができるのか考えよう。」という課題を設定し、商品に焦点を当てて授業を進められている。店舗型ショップとネット型ショップについて、いつ、どこで、だれが、どんな商品を買うかという視点で比較し、表に整理することによって、ネット型ショップのメリットを浮き出させている。この活動は、学習指導要領に「社会的な見方・考え方」として示されている、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過などに着目させ、社会的事象を比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること、が具現化されたものである。

(2) 多角的な視点に気付かせるパフォーマンス課題の活用

○日常生活において、消費者の立場でインターネットを閲覧し、利用している児童に販売者側の工夫を考えさせることによって、これまで利用してきたインターネット上の世界を多角的に捉え、インターネット上にあるものは、消費者が利用するだけでなく、販売者（作成者）の目的に応じて作られているという仕組みを知ることにつながっている。

3 情報活用能力の育成について

○先生方の実践は、学習指導要領に、言語能力、問題発見・解決能力等と同様に、学習の基盤となる資質・能力であると示されている情報活用能力の育成につながっている。社会科においては、資料という情報が学習の中で大きな割合を占めている。問題解決に必要な資料を集め、読み取り、吟味し、まとめ、社会的事象の特色や意味などを理解していく社会科の学習過程は、児童が情報を活用する力を伸ばすために、最適な教科であるといえる。今後、より一層、資料の活用を充実させた授業づくりに取り組んでいただきたい。



【令和5年度：第60回広島県小学校社会科教育研究大会 第（4）分科会】

（6）年生

1 【授業提案記録】

単 元 名 日本歴史

～明治の国づくりを進めた人々～

授業提案者 福山市立東小学校 教諭 松野 雄太

（1）授業提案の概要

- 阿部正弘を扱い、当時の国内情勢や海外情勢から、「この危機に対して阿部正弘はどのように取り組んでいったのだろう」という問いを設定し、単元を進めていった。予想として「戦争に備えて武器などを準備した」「海に近寄られないように準備した」「意見を聞いた」などが出てきた。
- 前時の段階で、「民衆から意見を聞いた」という事実にとどり着き、既に「どんな意見が集まったのか」という問いを立てていた。そのため、本時の学びづくり案の流れを修正して、その問いを本時の導入につなげて授業を進めた。
- 「なぜ開国はしたのに貿易は拒否したのか」という焦点化する問いをしっかりと考えさせ、阿部正弘が海外情勢に目を向けつつ国内の反乱を抑えたことや、目の前の戦争を避けるだけではなく貿易することで起こる物価上昇を防いだことにも気付いてほしかった。今日は、児童がそこに着目してしっかりと考えて表現することができていた。

（2）質疑応答・討議 Q（質問）・A（解答）・意（意見）・助（助言者）

- Q：「なぜ開国はしたのに貿易は拒否したのか」を考える場面で、児童が挙げていたのが外交的な視点多かった。それ以外にどのような考えを期待していたのか。
- A：開国拒絶派が6、7割いる中で貿易を一気に始めると、一揆や反乱がおこるかもしれない。そういう国内の争いを防ぐために開国したという考えを期待していた。
- 意：児童の発言でつながっていく授業で素晴らしかった。焦点化する問いが一番やりたいところだと思うが、そこで自分事とする必要があったのではないかな。正弘の判断を出す前に、自分が正弘だったらどう判断するか考えさせ、その後に実際の正弘の判断を提示する。あるいは、あらかじめ児童に自分だったらどう判断するか考えさせてその割合を提示し、その割合と実際の江戸時代の割合の違いから、「現代の自分たちと江戸時代の諸派の人達には、なぜこのような違いが生まれたのか。」を考えさせると、もっと深まったのではないかな。
- 意：諸派の意見の割合の資料と漫画の資料を対応させるのが難しそうだったので、グラフと絵を対応させておくことで、焦点化する問いの場面に時間が多く取れたのではないかな。現在やその時代と行き来したりする場面がもっとあるとさらにいい。
- Q：問いに合わせた資料の準備によって児童の力を引き出していた。児童からこんな情報が欲しいと言われて準備した資料や、児童が自分で見つけてきた資料はあったのか。
- A：本時の資料は教師が準備した。しかし、前時は、「ペリーが来航するまでの3年間何をしていたか」を調べる場面で、大型船を作ったのではないかと予想した児童は、インターネットで調べるなど、用意した資料以外でも、自分で学習端末を活用して調べていた。

2【実践提案記録】

研究主題	本質に迫る社会科授業の創造 ～社会的事象の見方・考え方を働かせる授業づくり～		
単元名	江戸幕府と政治の安定		
実践提案者	府中市立上下北小学校	教諭	林 菜穂

(1) 実践提案の概要

1 「見方・考え方を働かせることを促す思考ツールの活用」の手立て

○思考ツールの Y チャートを使って、「大名に対する政策」「百姓や町人に対する政策」「外国に対する政策」の 3 つの側面から、江戸幕府の政策を整理する活動を取り入れた。

2 「自分の考えを、論理的に他者に説明するための課題設定」の手だて

○江戸幕府の政策について説明する活動として、「政治の安定に一番つながったのは、だれに対する政策か」を考え、ペアやグループでの交流を行った。

○単元末に考えをまとめる活動として、「もし江戸時代に行って徳川家康に会えたら、江戸幕府は長い間どのようにして政治を安定させたのか教えてあげよう。」という課題を提示した。その際、根拠や理由を明確にすること、理解したことや自分の考えを論理的に説明できるように結論先行型でまとめること、それぞれの政策を関連付け、総合してまとめることを意識しながら、自分の言葉でまとめられるようにした。

3 成果・課題

○思考ツールの Y チャートを活用することで、社会的な見方・考え方を働かせ、3 つの側面から政策の共通点である「支配力を強めること」「財力を確保すること」を発見することができた。

○学習したことを根拠として、江戸幕府の政治の安定について、大名や百姓などの側面から政策の意図を説明したり、共通点から政策について述べたりすることができていた。

○政策の意図の理解が不十分であったことから、根拠を明確にして自分の考えを説明できない児童がいた。

(2) 質疑応答・討議

Q (質問)・A (解答)・意 (意見)・助 (助言者)

Q : 児童が Y チャートを使い慣れているように感じた。児童はいつから Y チャートを使っているのか。また、毎時間使うと大変だと思うが、毎時間使っていたのか。

A : 本単元では、毎時間使った。授業内で間に合わないときは、宿題等でまとめるようにした。自力でできない児童もいるが、その児童はロイロノートで他の子の整理したものを見て、それを参考にしながら取り組んでいた。

Q : 最後に家康に教えるという課題に取り組ませていたが、家康が実際に行った政策を書くのではなく「もっとこうした方が政治が安定する。」というようなアドバイスを書いてしまう児童が出てくる可能性がありそうだが、論理的に考えられるようなどのような問いかけを行ったのか。

A : 「家康は江戸幕府が約 260 年間続いたことを知らないの、自分だったらどうやって教えてあげる？」と問いかけた。すると、児童は「ルールを作って人々を支配することが大切です。」や「武士には武家諸法度で取り締まり、百姓には百姓へのお触書等で取り締まって支配力を強めてください。」など、共通点の言葉「支配」を使って書くことができていた。しかし、共通点ではなく、「武士には武家諸法度で武士を統制する。百姓には身分統制をして、財政を安定させることが大切です。」というように、3 つの側面をそれぞれ書いている児童もいた。

3 【指導・助言】

(助言者：福山市教育委員会 学校教育部 学びづくり課 指導主事 柏原 正志先生)

1 授業提案について

- 阿部正弘を取り上げることで児童の関心を引き出すだけにとどまらず、授業者の詳細な教材研究により、阿部正弘を通して幕末を考える中に、社会的な見方・考え方を働かせる場面が位置付けられていたことがよかった。
- 本時では、「事象の相互関係に着目して総合的に考える」と、働かせる見方・考え方を明確にしていたことがよかった。「阿部正弘は、日本のために一番いい答えを出した。」という児童の発言があったが、「どんな面から何をもっていい答えなのか」を問い直して掘り下げていくと、より見方・考え方を働かせることができた。
- 前時の児童の実態を踏まえて本時の導入を変更していた。授業は1時間1時間ではなく、単元のまとまりで目標の達成に向かうことが大切なので、柔軟に対応できることは大事である。本時の後半も、児童の様子から、次時に繋げてよかった。

2 実践提案について

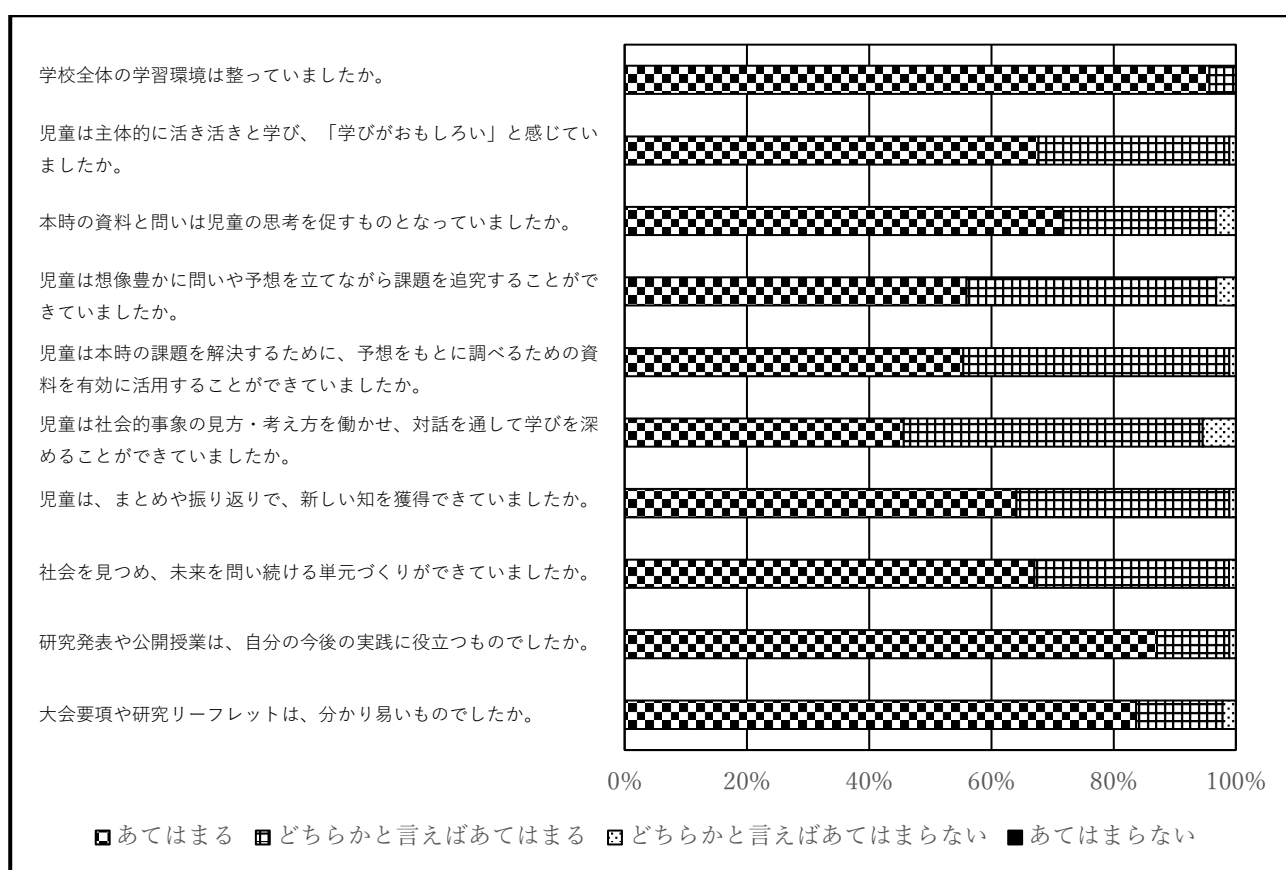
- 「事象の相互関係」に着目する見方・考え方を働かせるための手立てとして、思考ツールを活用していた。このように、働かせる見方・考え方とそのための手立てを明確にしていたのがよかった。明確にしているから、その見方・考え方を働かせていたかどうかを検証でき、授業改善のサイクルを回すことができる。
- 表現する活動では、学習指導要領をもとに、子どもたちに何を求めるか、どこにこだわって指導するかを明確にすることが大切である。本提案は、「説明する」として、根拠や理由を明確にして自分の考えを論理的に説明することを意識させて取り組んでいた。

3 社会的な見方・考え方を意識した教材研究について

- 社会的な見方・考え方には、「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」がある。その中で、どのような問いを設定し、どのような資料を提示することで、どのような見方・考え方を働かせるのかを意識して授業づくりを行うことが大切である。
- 教材観（学習指導要領の目標や内容を確認し、教材の価値やつながりから、どんな事ができるかどんなことを学べるかといった教材への理解を深めること）、児童観（児童は、どんな力があってどんな力が足りていないのか、どんな経験をしているのかといった児童への理解を深めること）を総合して、単元を設計し、手立てを考えることが必要である。
- 教材研究は、社会科の目標「公民としての資質・能力の基礎を育成する」ために行う。その公民としての資質・能力の基礎が試されるのが、小・中学校9年間の社会科の出口である単元「よい社会を目指して」である。持続的な社会の形成に向けて、今の社会の課題を自分で見つけ、その解決のために資料を集め、自分の考えを論述する単元である。そこへの繋がりを意識し、各学年、各枠組みでいろいろな見方・考え方を繰り返し働かせ、鍛えていくことが大切である。



V 成果と課題<参加者アンケートより> (○…成果 △…課題)



(1) 問いと資料

- 1人1人の問いを大切にしながら、授業をしている姿がとても参考になった。
- 問いの重要性はとてもよく分かった。本校の研究主題と澤井先生のお話がよくつながり、勉強になった。
- 社会科の授業を創る際の「問い」の立て方や本時の中で、どのような順で問いを出せばいいのかがとてもよく分かった。発問に悩んでいたので、こういう問いを設定すればいいんだ！と目からウロコの研修だった。
- 子ども達から「えー」「おお」と声が出るような資料を用意されていておもしろかった。
- 教材開発をする上で、大切にされていることや資料の精選の難しさなどを改めて感じた。
- 資料提示を意図的なものとするため、目的に応じて分類するなど、新しい学びが多くあった。資料から読み取ったことをどう広げ深めていくかということを自分の実践と重ねながら考えた。
- 資料提示の仕方により、児童の学びが深まることを実感した。
- 確かめるための資料は、考えが深まった後に提示する必要があると感じた。そして、深めるためには、資料を読み取る力を3学年がスタートの時なのでしっかり養うことが大切だと感じた。
- 資料をよく探し、問いにこだわっておられる姿がすばらしかった。
- 資料と問いをしっかりと考え、子どもたちが主体的に授業に参加している姿が大変参考になった。
- 問いと資料に気をつけて授業づくりをすることで、子どもが予想をもとに学びを深めていくのだと感じることができた。子ども達が一生懸命に予想を立て学んでいく姿から、今までの実践の積み重ねを感じた。
- 単元を貫く問いが明確であった。ねらいに沿った資料を精選し、予想→事象の確認の中に自分なりに考える機会がたくさんあった。

(2) 授業

- 学びに向かう子ども達の姿がステキだった。
- 授業そのものもとても素晴らしく見応えがあったが、それが研究テーマや仮説、視点といった提案内容としっかり結びついており、裏打ちされている点にも圧倒された。
- ICTを活用した授業づくりですばらしかった。
- 学習計画の作り方、掲示物の工夫など新しい気付きが多くあった。
- 単元構成や資料集めのための取材など、とても丁寧に行われており、教材研究への熱量や努力が素晴らしいと思った。
- 授業の内容だけでなく、資料やタブレットの使い方など、見方、考え方を意識したこと、参考になった。
- 観させて頂いた授業でも、児童がたくさんの疑問を出し、その疑問を児童が解決する姿がたくさんみられて、とても参考になった。
- 取り組むことが難しいジグソー学習や児童の問いに応じた資料見つけを自分でさせることを研究主題や研究内容に忠実に実践されていることに感動した。
- 単元づくり、各授業の積み上げ、児童自作のスライド、マイ課題など学びがたくさんあった。
- どの教室にも学習の足あとがあり、これまで子どもたちと授業づくりを進めてこられた様子がうかがえた。1人1人が自分の課題にこだわりつつ、友達の調べたこと、考え、疑問を受け入れ、一緒に高め合っているなど感じた。
- 5年生の授業の「マイ課題」、まとめに向けてのキーワードから抽象的な概念の言葉にせり上がる授業展開はとても勉強になった。
- 深い教材研究、選び抜かれた資料、テンポのよい展開、主体的に調べようとする児童の姿、どれをとっても素晴らしかった。
- 6年の阿部正弘の授業(単元)大変参考になり素晴らしかった。本校においてもぜひ取り組んでみたい。本当にストーリー性があって面白かった。資料も大変参考になった。
- 6年の授業で「目に見えていることだけではなく未来のことも考えて～」という児童の発言に度肝を抜かれた。子ども達なりの表現豊かな発見があふれ、日々の実践の大切さがよく分かった。
- △教材論として、本単元からわかる社会が見えてこなかったのも、もっと深い教材研究が必要だったのではないのかと感じた。残したいのはなぜか、時代が変わっても続ける意図が役員さんの思いだけのはずがないと思う。“動くとんど”の背景について、もう少し見たかった。
- △4年「問いと資料」5年「本時のゴールと活動」はあったのか疑問が残る。
- △対話の面でいくと、児童同士のアイコンタクトやジグソーでのPCの台数(1台1班)、机の置き方の変化でもさらに活発になると思った。
- △授業の終わりあたりで、先生が「この判断のすごさをどう考える？」というような発問があった。先生から「すごさ」と言われるのは、価値の注入にややなるのではないか。
- △充実した資料だった分、より子どもたちが概念的な意見を活発に話し合い、深い思考が出るようであればと感じた。
- △どうしても反応のよい挙手した児童の意見で授業がすすんでしまい、とっても残念だった。つぶやきを拾い、主体的、対話的をいれていくと楽しい単元構成がもっと生かせると感じた。

（３）研究発表

- 研究報告から単元との出会いの際に、子どもから「なぜ？」や「どうして？」といった問いが出てくることで、授業の展開がより面白くなるなど考えることができた。
- 深い学びにつながる為の６つの問いの整理がとても参考になった。また、資料の目的の明確化も参考になった。
- 研究報告、よくまとめられており、授業を考えていく上で大変参考になった。予想をもっと大切にしていきたい。

（４）講演

- とても勉強になった。
- とても分かりやすく、授業研究の在り方を考えさせられた。
- 単元づくりで大切なことを教えていただいた。
- 現場での実践に大変参考になることばかりで、教材研究の方法などやっていこうと思った。
- 分かりやすく、なるほどと思うし、明日からまたがんばろうという気持ちになる。

（５）運営、会場等

- 各フロアに案内図があり、初めて来た学校でも迷わず次の移動場所が分かりやすかった。
- 半日開催だったが、とても充実した研究大会だった。運営もすばらしくとてもスムーズだった。
- △たくさんの方がおられて教室に入れず、廊下から拝見したが、児童の声が聞き取りにくく残念だった。もう少し、広い教室で授業を行って下さるとありがたい。
- △移動の時間が短かったので、もう少しほしかった。
- △質疑 15 分が短くて、本当にもったいない感じがした。1 時間やっても耐えられるようなとかそれぐらいほしい内容だった。
- △半日開催ということで、協議の時間が短かったと思う。もう少し協議の時間があればよかった。
- △駐車場の通路がちょっとせまかった

（６）その他

- 教室環境やクラスの学習規律が整っていて、先生の普段の学級経営の賜だと思った。
- どの学級も教師と子ども達の関係が素敵だった。授業される先生だけでなく（実行委員も含め）サポートのすばらしさも感じた。学校全体、実行委員全体の力だと思う。（チーム力ですね）
- 6年生の学級の雰囲気がとても良かった。発表後の反応、つなぎ発表、日々の指導の素晴らしさを感じた。
- 社会科の本質を追究しようと、学校一丸となって取り組まれていることに感銘を受けた。
- 先生方の社会を通して子どもを育てようとするお姿に頭の下がる思いだった。
- 自身の授業の在り方を見直す大きなきっかけをいただいた。教材研究の重要性を改めて感じた。
- 単元設計、発問の段階等、勉強させていただいた。
- 教材研究をしていく上で、どのように調べていったのか具体的に教えてもらえると、社会が苦手な先生やどのようにしていけばいいか分からない先生の「やってみよう！」につながるかなと思った。
- 自分の今後の教員としての実践にとって価値の高い時間になった。
- △もっと授業についてみなさんがどう感じたか聞きたいと感じた。

編集後記

【ご指導いただいた先生方】

大妻女子大学 家政学部 児童学科 教 授 澤井 陽介 先生

広島県教育委員会 学びの变革推進部 義務教育指導課

指導主事 宮岡 大輔 先生

広島県東部教育事務所 教育指導課 指導主事 池内 佑介 先生

広島県西部教育事務所 教育指導課 指導主事 高橋 伸明 先生

福山市教育委員会 学校教育部 学びづくり課

指導主事 柏原 正志 先生

【会場校 福山市立東小学校 教職員（令和5年度）】

村上 里美	池田 浩史	松村 裕美	柏 直緒	曾根 可菜
中井 浩司	柴田 竜矢	黒木 沙恵	窪田 伸二	渡邊 大樹
杉本 健将	森 千紘	大垣 育子	松野 雄太	藤井 友花
森田 浩之	前田 晋吾	山下 久美	三好 博子	三村佳代子
瀬尾 美里	平木 良江	徳永 鈴江	梅本 早苗	児玉 孝子
椋目智恵子	大下 順子	松田 幸子	平山 奈美	村上 直子
福田 淳子	黒田 美恵	石橋 浩子	増永小百合	齋藤歩由佳

第 60 回広島県小学校社会科教育研究大会（福山大会）役員

<広島県小学校教育研究会社会科部会>

部 会 長	阪 田 淳 二	広島市立皆実小学校
副 部 会 長	清 水 弓記子	福山市立明王台小学校
副 部 会 長	石 村 誠	庄原市立山内小学校
副 部 会 長	戸 崎 志乃婦	廿日市市立地御前小学校
監 事	岩 見 文 彦	安芸高田市立高宮小学校
監 事	矢 野 康 博	府中市立旭小学校
常 任	後 東 貴 之	呉市立広小学校
常 任	池 岡 妙 子	世羅町立せらひがし小学校
常 任	川 上 克 己	北広島町立八重東小学校
常 任	貞 丸 昭 則	三次市立青河小学校
事 務 局 長	古 谷 修 一	広島市立飯室小学校
事 務 局 次 長	河 野 隆	広島市立山本小学校
幹 事	樽 谷 秀 幸	広島市立湯来南小学校
幹 事	三 好 崇 之	広島市立江波小学校

<現地実行委員会>

現地実行委員長	清 水 弓記子	福山市立明王台小学校
現地実行副委員長	村 上 里 美	福山市立東小学校
会場校校長		
事 務 局 長	小 畠 仁 美	福山市立金江小学校
総 務 部	埴 田 勝 司	福山市立野々浜小学校
	石 田 典 久	福山市立千田小学校
運 営 部	小 坂 京	福山市立曙小学校
	高 橋 典 子	福山市立霞小学校
研 究 部	湯 川 美貴子	福山市立御野小学校
	宮 本 浩 嗣	福山市立春日小学校
事 務 局 次 長	松 葉 信 男	福山市立駅家北小学校
	池 田 浩 史	福山市立東小学校
事 務 局 員	前 田 晋 吾	福山市立東小学校
	檀 上 祐 美	福山市立霞小学校
	杉野原 志 穂	福山市立金江小学校
	山 口 哲 史	福山市立野々浜小学校

第 60 回広島県小学校社会科教育研究大会
福山大会報告集

発行 令和 5 年 12 月 22 日

編集 広島県小学校社会科教育研究大会（福山大会）
現地実行委員会



令和5年11月1日
第60回広島県小学校
社会科教育研究大会
(福山大会)